

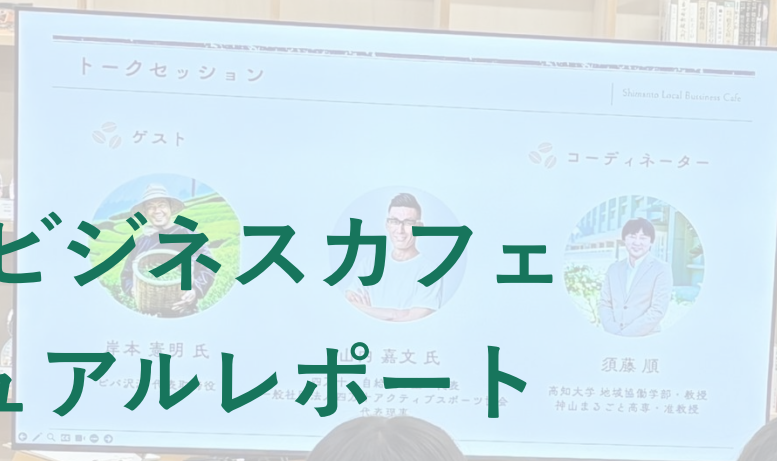
2026.8



四万十塾



40010地域ビジネスカフェ Vol.2 ビジュアルレポート



高知大学 地域協働学部
コミュニティデザイン研究室



COMMUNITY
DESIGN
LAB.
KOCHI UNIVERSITY

实施概要

实施概要

イベント概要

- **名称**：40010地域ビジネスカフェ
- **回数**：全2回
- **期間**：2026年6月27日～2026年8月29日
- **主催**：四万十町役場 にぎわい創出課
- **運営**：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）

【スケジュール】

講座回	開催日	テーマ
Vol.1	6/27	他人ごとを、自分ごとに。身近な困りごとから生まれる、地域ビジネスの形
Vol.2	8/29	地域資源を、地域の仕事に。小さく始め、事業を育てる地域ビジネスの作り方

40010地域
ビジネスカフェ
Vol.2

地域資源を、地域の仕事に。

小さく始め、事業を育てる 地域ビジネスの作り方

2026 8/29

18:00-20:00

地域にある資源や、自分自身の経験・得意なことを生かして、
「自分らしい仕事をつくってみたい」と思ったことはありませんか？

「40010地域ビジネスカフェ」は、地域で自分らしい働き方を実践するゲストの経験を聞き、
参加者同士で気軽に語り合う交流の場です。第2回は、仁淀川町で茶の生産・販売からカフェ、体験型観光事業へと
活動を広げる岸本憲明さんと、四万十町で養鶏、DX支援、スポーツイベント運営に取り組む山内嘉文さんを迎えます。
地域資源と自らの経験や得意分野を、どのように仕事へ結びつけてきたのか。事業を始めたきっかけや試行錯誤、
複数の仕事を組み合わせる工夫を伺いながら、地域で自分らしい仕事や活動を始めるヒントを探ります。

参加費
無料

会場 遊芸庵【四万十町茂串町215-13】

定員 20名程度

対象

- ・地域資源を生かした仕事や事業に関心がある方
 - ・農業、観光、飲食などを組み合わせた事業に関心がある方
 - ・地域で小さく事業を始めてみたい方
 - ・自分の商品やサービスをどのように広げたいか考えたい方
 - ・四万十町をフィールドに新しい活動を始めたい方
 - ・同じような思いを持つ人とつながりたい方
- 上記に限らず、どなたでもご参加いただけます！

タイムライン

- 第1部：ゲストによる取組み等の発表
第2部：トークセッション
第3部：ゲストと参加者の
フリートーク(自由に交流)
- ※終了後、ゲストと参加者の懇親会を予定
しています【会費制・希望者のみ】

GUEST



株式会社ビバ沢渡 代表取締役

岸本 憲明氏

1982年、高知市生まれ。24歳で仁淀川町に「ターンし」祖父から茶栽培の技術を学ぶ。2011年に専業農家へ転身し、自ら生産する茶を「沢渡茶」と名付けて販売を開始した。2018年には、沢渡茶や地域の食を家しめるカフェ「茶農家の店あすなろ」を開業。2023年には、岩屋川渓谷に地味吊り橋とジップラインを組み合わせた体験型観光施設「NIYOFLY(ニヨフライ)」を開業した。茶の生産・販売にとどまらず、飲食や観光体験へと事業を展開し、沢渡茶を入りに仁淀川町の魅力を広く発信している。

GUEST



四万十・自給農の里 代表
一般社団法人四万十アクティブスポーツ協会 代表理事

山内 嘉文氏

Sier.コンサルティングファーム、大手流通グループでIT・DXや業務改革に関わった後、高知県四万十町へ移住。現在は、平飼養鶏によるブランド卵「神楽鶏」の生産・販売と、企業の業務改革・DX支援を行うフリーランスコンサルタントとして活動。さらに、一般社団法人四万十アクティブスポーツ協会代表として「四万十清流アドベンチャーレース」を主催するなど、自然・食・スポーツを通じて地域資源の新たな価値創出と地域活性化に取り組んでいる。



Coordinator
須藤 順

高知大学地域協働学部・教授
神山まごごと専攻・准教授

お申し込み方法

下記いずれかのQRコードよりお願いいたします／

申し込み
専用フォーム



Peatix



お問い合わせ先

40010地域ビジネスCafé運営事務局

✉ 40010info@gmail.com

お問い合わせフォーム



● 四万十町にぎわい創出課(担当:友永)

☎ 0880-22-3281

✉ syoko-koyo-40010@town.shimanto.lg.jp

実施要項

- **名称**：40010地域ビジネスカフェVol.2「地域資源を、地域の仕事に。小さく始め、事業を育てる地域ビジネスのつくり方」
- **日時**：2026年8月29日（土）18:00～20:00
- **場所**：遊芸庵（四万十町茂串町215-13）
- **主催**：四万十町役場 にぎわい創出課
- **運営**：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）

【タイムライン】

Time	Theme	Contents
18:00～18:10	チェックイン	・ 講座の説明 ・ 自己紹介／本日の気持ちの共有
18:10～18:50	活動紹介	・ キーノート①：株式会社ビバ沢渡 代表取締役 岸本憲明氏 ・ キーノート②：四万十・自給農の里 代表／一般社団法人四万十アクティブスポーツ協会 代表理事 山内嘉文氏
19:00～19:30	トークセッション	・ ゲストとコーディネーターによる起業や事業に関する意見交換
19:30～20:00	フリートーク	・ ゲストや参加者同士での交流

実施レポート

40010地域ビジネスカフェ Vol.2

40010地域ビジネスカフェ Vol.2では、高知県仁淀川町で活躍する株式会社ビバ沢渡 代表取締役の岸本憲明氏と、四万十町で活躍する四万十・自給農の里 代表／一般社団法人四万十アクティブスポーツ協会 代表理事の山内嘉文氏をゲストに迎え、活動紹介やトークセッション、フリートークを行いました。岸本氏は、24歳で仁淀川町へ1ターンし、祖父から茶栽培の技術を継承。現在は茶栽培にとどまらず、飲食店やアクティビティ事業など、地域資源を生かした多様な事業を展開しています。山内氏は、コンサルティングファームや大手企業でIT・DX推進業務を経験した後、四万十町へ移住。養鶏場の経営やブランド卵「神果卵」の販売、「四万十清流アドベンチャーレース」の主催に加え、田舎発のコンサルティングファーム構想も持ち活動をされています。トークセッションでは、事業承継の進め方や地域資源を活用する際のポイントなど、両者に共通するテーマを取り上げ、それぞれの考え方の共通点や相違点に焦点を当てながら意見を交わしました。フリートークでは、参加者から発表内容に対する感想や質問が寄せられ、地域ビジネスへの理解を深める時間となりました。



岸本氏の活動紹介



山内氏の活動紹介



活動紹介を聞く参加者の様子



トークセッションの様子



フリートークで交流する参加者の様子



Vol.1の参加者の集合写真

参加者アンケート

アンケート概要

調査目的： イベント参加者の満足度や今後の改善点を把握するため

調査対象： イベント参加者

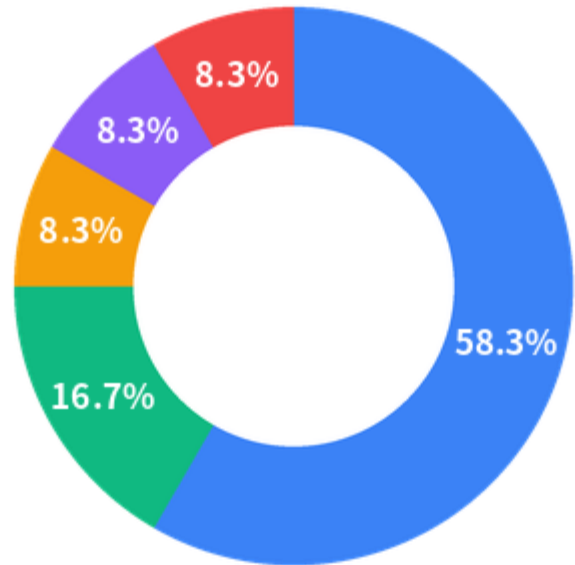
調査方法： GoogleフォームによるWebアンケート

調査期間： 2026年8月29日～9月1日（イベント終了後 1週間）

回答者数： 12名

主な調査項目： 満足度、NPS（推奨度）、参加理由、印象に残った内容、改善点、自由記述 など

Q1. このイベントを友人や同僚に薦めたいと思いますか？（10点満点）



- 10点（非常に薦めたい）：7名
- 9点：2名
- 8点：1名
- 7点：1名
- 6点：1名

NPS

66.7

最高評価の10点をつけた回答者が58.3%と半数を超え、9点以上の「推奨者」は全体の75.0%にのぼっており、推奨意欲は高い水準にあることがうかがえる。一方で6点をつけた回答も1件あり、慎重な意見にも目を向けていく必要がある。

Q2. その点数をつけた理由を教えてください。

実践者の生の声への評価

- “ ただのビジネスセミナーではなく、実際に第一線で活躍されている社長さんと直にお話でき、生の声をお伺いできたから。
- “ 実例を聞くことで、自分の中の「仕事」像の輪郭がはっきりする。商品やサービス、ゲストさん自身のファンになれる。
- “ 事例提供のお二人も、スタッフもいきいきとしていて、聞くだけでも楽しかった。自分の地域でも、こんな試みがあれば頼もしい。

学び・視点の広がりへの評価

- “ 非常に参考になるお話を聞けるから。ゲストと先生のトークが特に参考になる。
- “ 様々な職業の方が来られていて、意見を聞くことができたため。
- “ 多様なゲストが話を展開してくれるから。多様すぎて、テーマによって誘う／誘わないがありそう。

推奨理由としては、「実践者の生の声を直接聞いたこと」や「自分の仕事像が明確になったこと」など、プログラムの実践性を評価する声が多く見られた。一方で「誘う相手を選ぶかもしれない」との声もあり、関心層とのマッチングに影響があることが想定される。

Q3. 特に印象に残った内容やお話があれば教えてください。

挑戦への姿勢・マインドセット

- “ やりたいと思ったら、色々悩まずやってみるということ。
- “ お二人とも、今までと違う分野や地域に飛び込まれて、とても楽しそうだったところが印象に残りました。
- “ 祭りと茶畑を残したい一心で事業承継をしたという動機や、外に物を売り、外から人を呼び込み、外から仕事を取ってくるという3つの視点。

地域資源・地域との関わり

- “ 地元の資源を活かすという点。
- “ 地域外のゲストが、どのようにして地域に溶け込むのか。
- “ 地域の若者、次世代が地域で暮らしていける舞台としての、地域事業の考え方には刺激を受けました。

「悩まずやってみる」という挑戦への姿勢や、異なる分野・地域に楽しみながら飛び込むゲストの姿が印象に残ったとする回答が見られた。地域資源の生かし方や地域に溶け込むプロセスへの言及も多く、実践者ならではの一次情報が心に残ったことが考えられる。

Q4. 本イベントを通して、新たな気づきや学びがあれば教えてください。

地域・コミュニティとの向き合い方

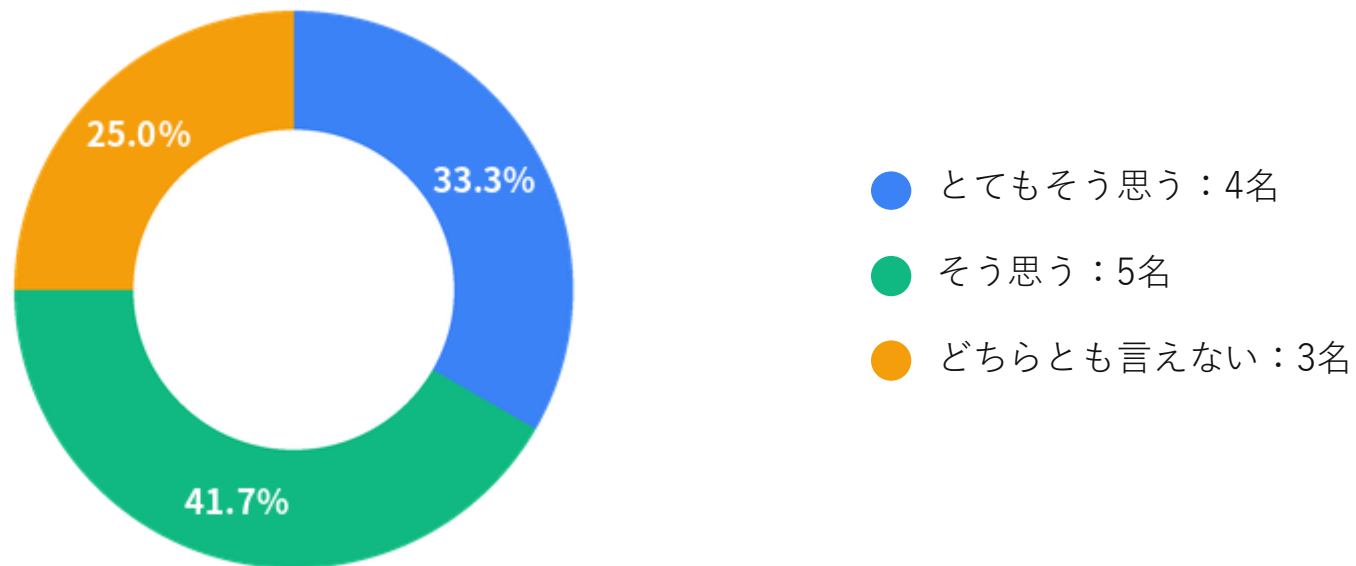
- “ よそ者と土地者の協業。
- “ 地域というコミュニティについて、その向き合い方などに刺激を受けました。
- “ 高級卵の生産販売とスポーツイベントは相容れないように感じていたが、それぞれ活かす地域資源が違っているから当然なのかと納得した。

行動・発想の転換

- “ 失敗を恐れずやってみるということ。
- “ 資源を使うことを少し考えてみようと思いました。

「失敗を恐れずやってみる」といった行動面の気づきに加え、「よそ者と土地者の協業」など地域との関係性に関する学びが挙げられた。事業ごとに活かす地域資源が異なるという視点への納得の声もあり、資源のとらえ方を広げる機会になった可能性が考えられる。

Q5. イベントを通して「自分も何かやってみたい」と感じましたか？



「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた肯定的な回答が75.0%にのぼり、参加者の多くが行動への動機づけを得たことがうかがえる。一方「どちらとも言えない」も25.0%あり、今後のフォローアップや実践機会の提供が次の検討課題になる可能性がある。

Q6. 具体的にどのようなことをやってみたいと思いましたか？

事業・起業への具体的なアクション

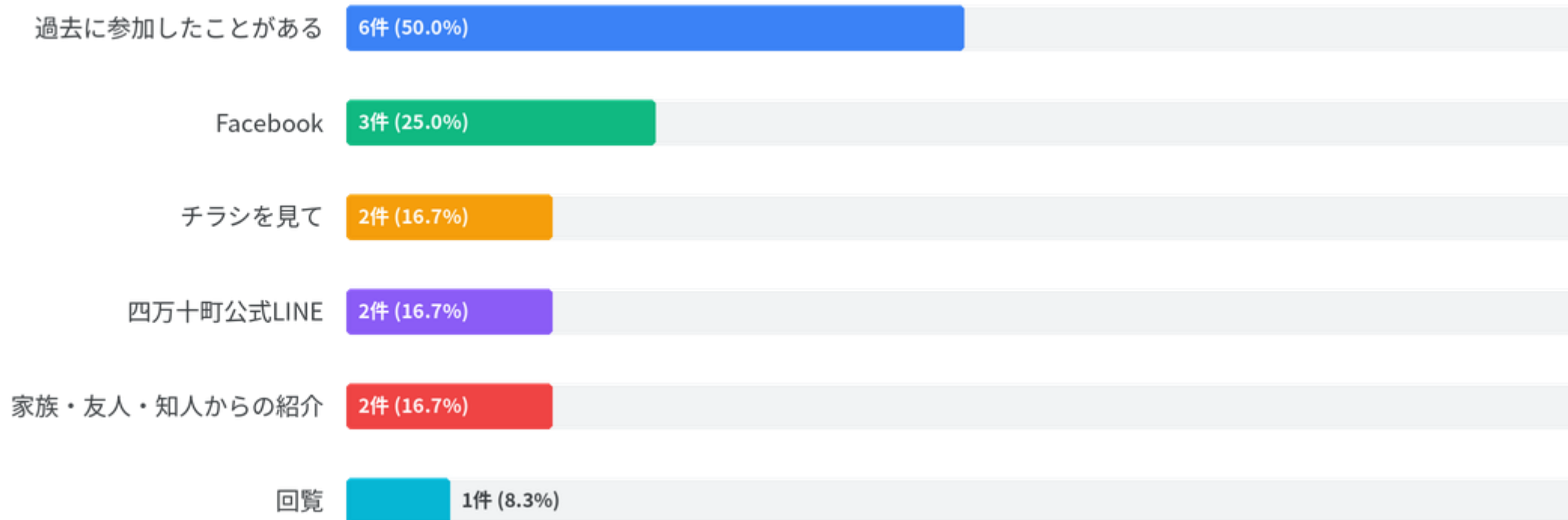
- “ 前から考えている起業。
- “ 今考えている事業に、地元というアクセントを加えたい。
- “ 現在の事業のブラッシュアップのための示唆を得たので、活用していきたいと思います。
- “ 沢渡茶のお話が参考になった。

働き方・関わり方の見直し

- “ 茶道ツーリズム。
- “ 改めて「半農半X」や、3分の1ずつ3つのことに時間を使う考え方がしっくり来た。
- “ 家族が違う分野に携わるのを応援したいと思います。

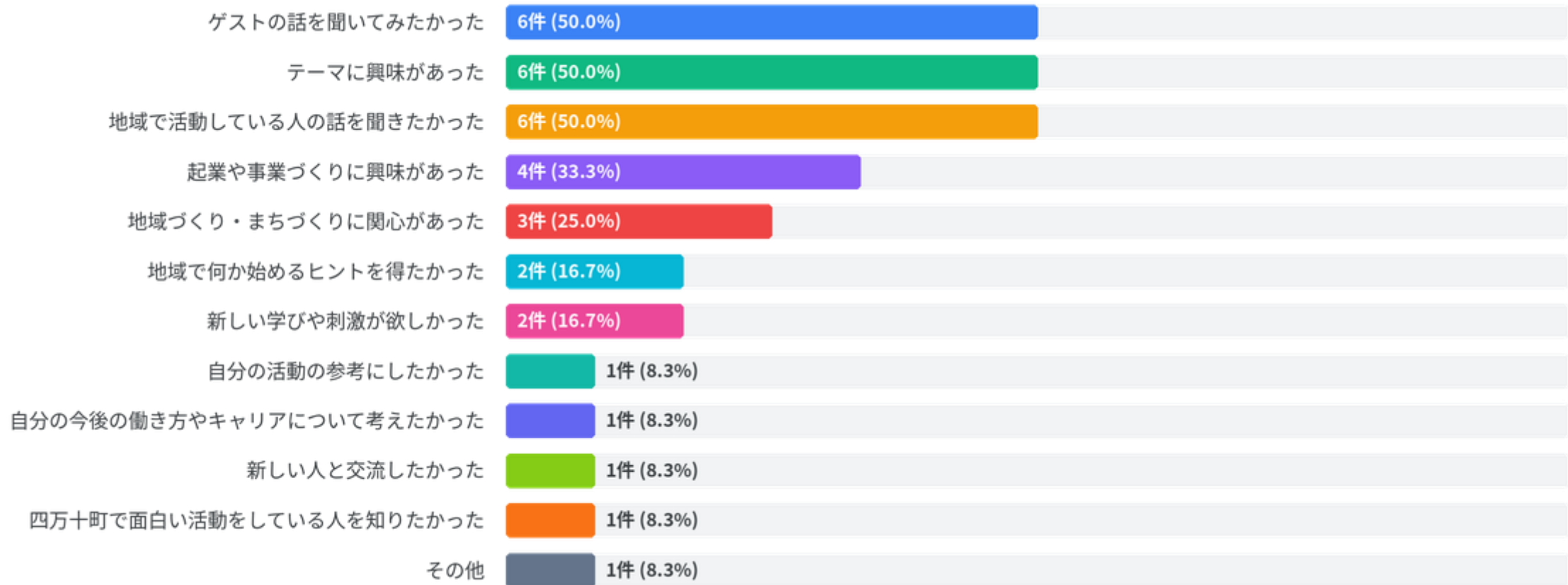
「前から考えている起業」や「今の事業に地元というアクセントを加えたい」など、自身の事業に引きつけた具体的な回答が見られた。
「半農半X」のような働き方の見直しに触れる声もあり、得られた気づきが行動イメージにつながりつつあることが示唆された。

Q7. このイベントをどこで知りましたか？



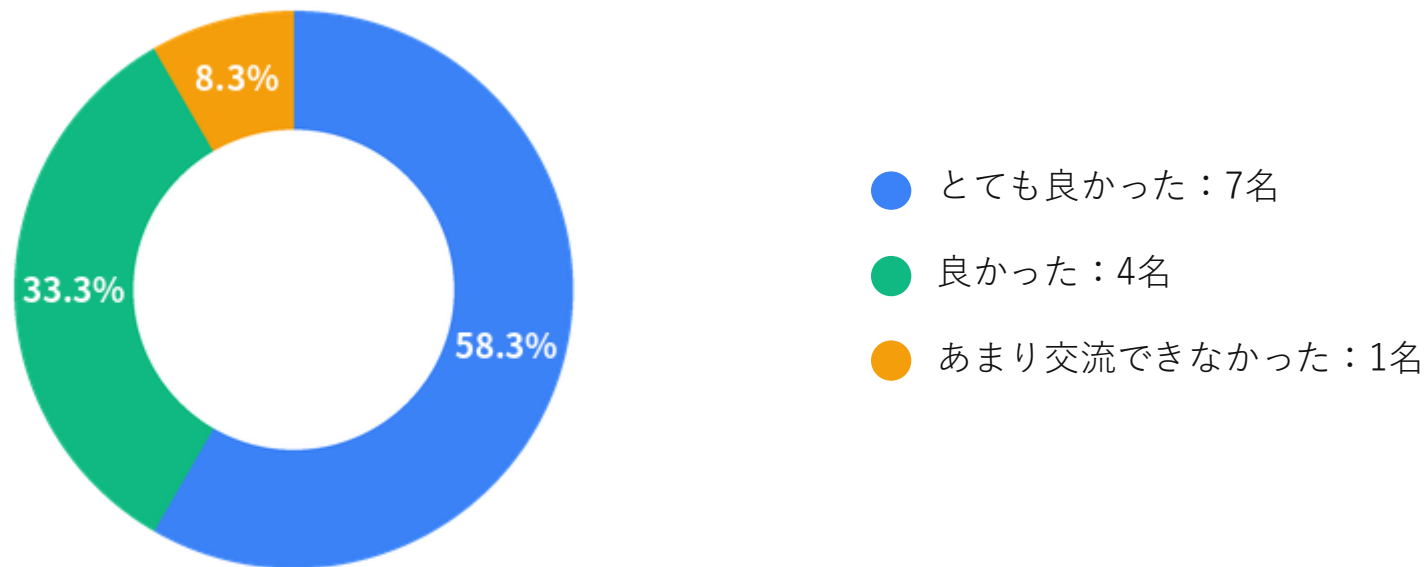
「過去に参加したことがある」が50.0%と最も多く、Vol.1からの継続参加者が一定数いることがうかがえる。Facebook（25.0%）に加え、チラシ・回覧・公式LINEからの認知も見られ、Webと地域媒体を組み合わせた告知が有効である可能性が考えられる。

Q8. このイベントへの参加のきっかけを教えてください。



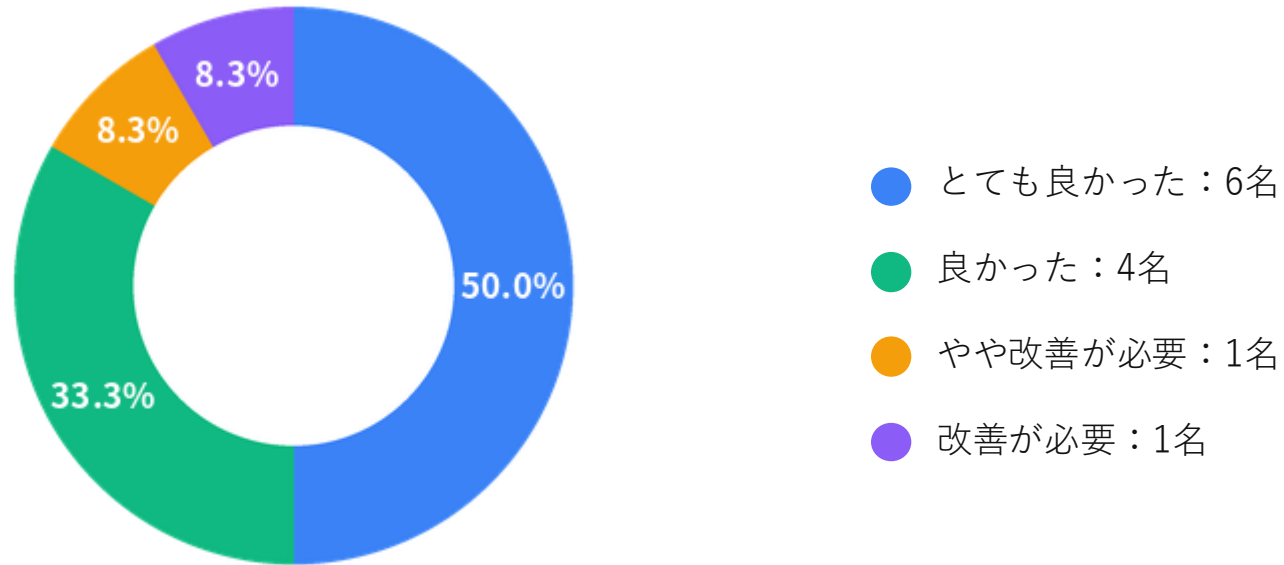
「ゲストの話」「テーマへの興味」「地域で活動している人の話」がいずれも50.0%で並び、ゲストとテーマへの関心が主要な参加動機となっていることがうかがえる。地域で実践する人の話を起点とした学びへの期待が、参加につながった可能性が考えられる。

Q9. 参加者やゲストとの交流はいかがでしたか？



「とても良かった」「良かった」を合わせて91.7%が交流を肯定的に評価しており、双方向のプログラム設計が機能した可能性がうかがえる。一方「あまり交流できなかった」も1件あり、フリートークの時間配分など交流機会の確保が検討点になると考えられる。

Q10. イベントの進行や運営についてはいかがでしたか？



進行・運営については83.3%が肯定的に評価している。一方で「やや改善が必要」「改善が必要」も各1件あり、自由記述では空調や当日のアナウンスに関する具体的な指摘が寄せられていることから、当日のオペレーション面に改善の余地があることが示唆される。

Q11. 運営に対する評価の理由を教えてください。

進行・設備面への改善提案

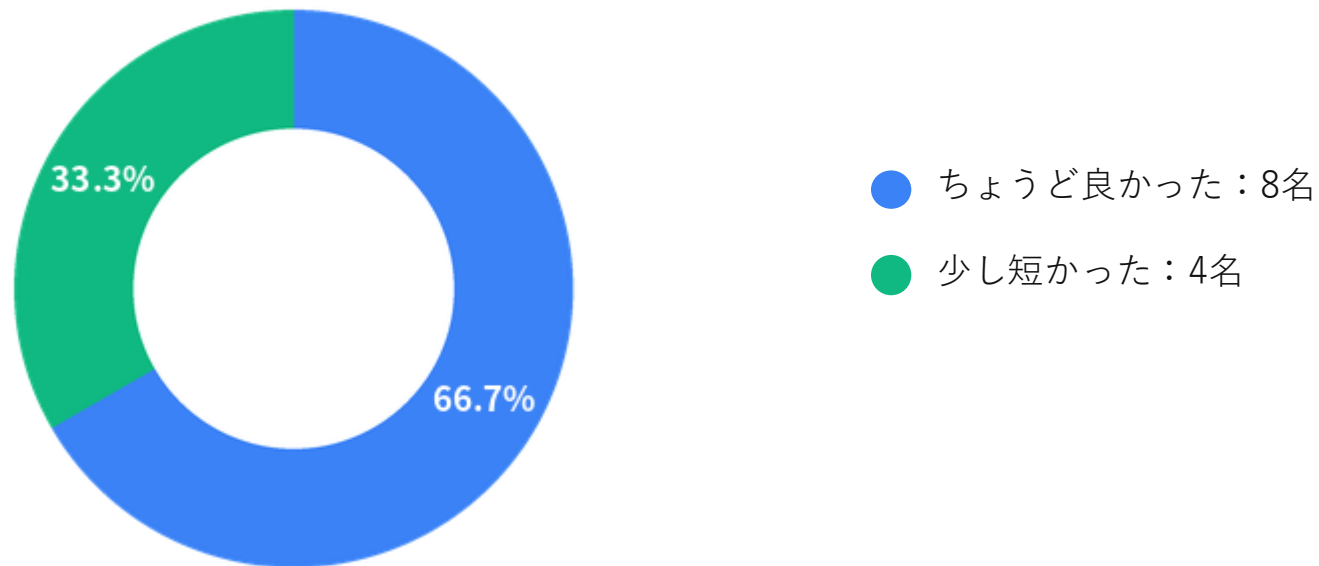
- “ フリートークの時間が短いように感じられたから。
- “ 空調の調整が難しく、温度が低すぎたり、風量が強すぎて声が聞こえにくいと感じた。
- “ グループを作るときに人数の指示や、残り時間のアナウンスがあると話しやすいと感じた。

運営・当日の様子（好評価）

- “ 会全体の進行は良かった。
- “ お菓子や飲み物が用意されている。

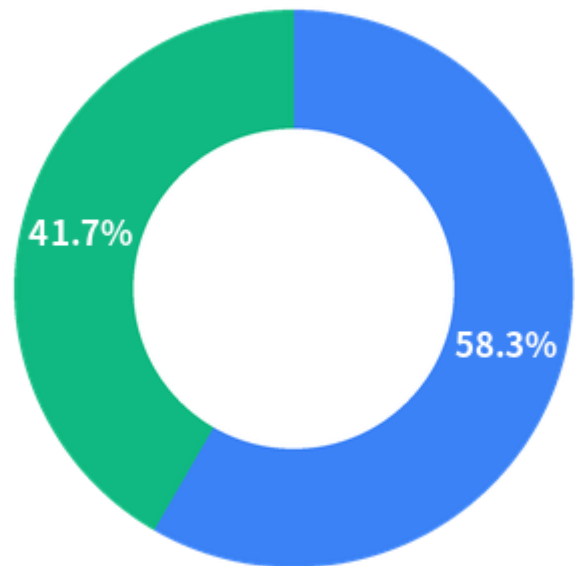
進行全体やお菓子・飲み物の用意など、当日の運営を肯定的に受け止める声が見られた。一方でフリートークの時間、空調による聞き取りにくさ、グループ分けや残り時間のアナウンスなど具体的な提案も寄せられ、次回の運営設計に生かせると考えられる。

Q12. イベントの時間・長さについてはいかがでしたか？



「ちょうど良かった」が66.7%と多数を占める一方、「少し短かった」も33.3%にのぼる。長すぎるという回答は見られず、交流や対話の時間を確保してほしいというニーズがある可能性がうかがえ、時間配分が今後の検討点になると考えられる。

Q13. 会場や雰囲気についてはいかがでしたか？

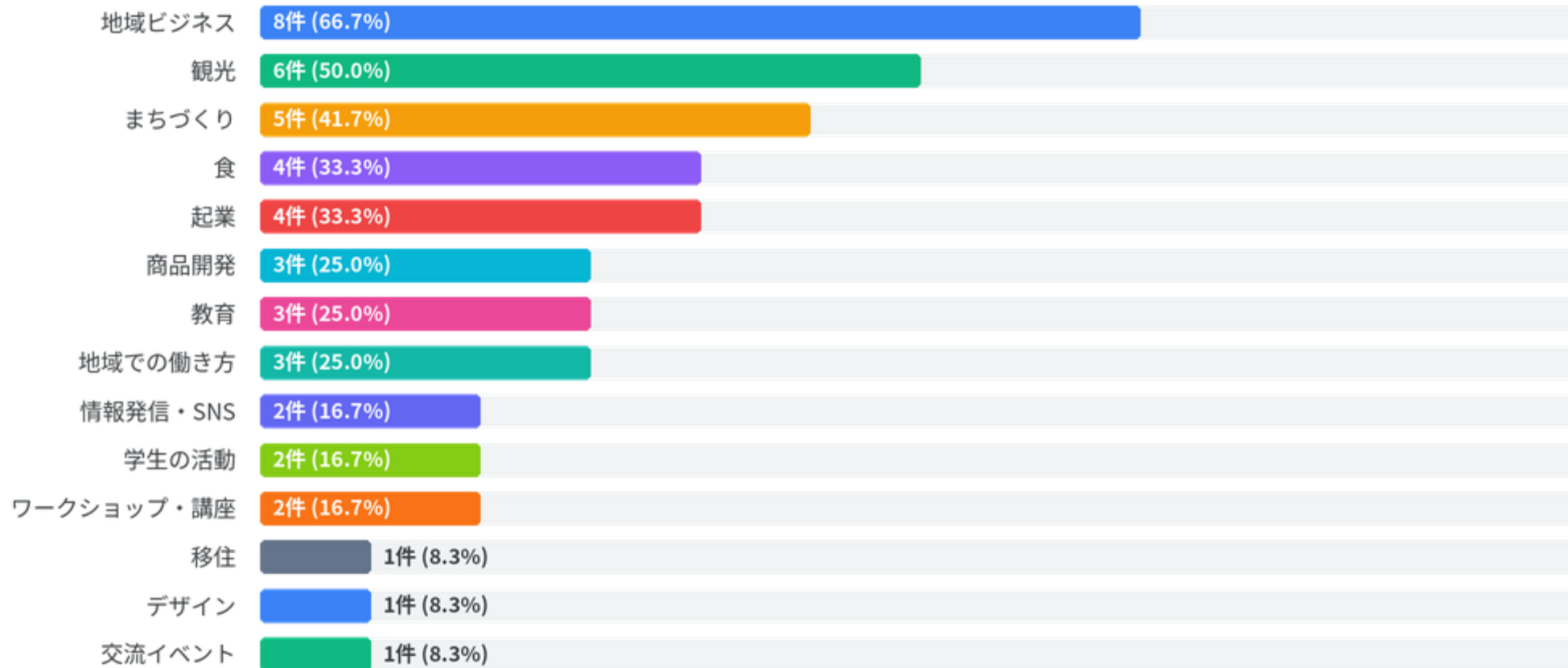


● とても良かった：7名（58.3%）

● 良かった：5名（41.7%）

「とても良かった」（58.3%）「良かった」（41.7%）で、全ての回答が肯定的な評価となっている。会場（遊芸庵）の風情ある空間や、そこで生まれた和やかな雰囲気が、参加体験の満足度を支えた可能性が考えられる。

Q14. 今後、関心のあるテーマや参加してみたい内容があれば教えてください



「地域ビジネス」(66.7%)への関心が最も高く、「観光」(50.0%)「まちづくり」(41.7%)が続いている。地域資源を生かした事業づくりを軸に、観光やまちづくりと重なるテーマ設定が、次回以降の参加ニーズに応える可能性が考えられる。

Q15. ゲストへのメッセージ等があれば自由にご記入ください

参考・刺激になったという声

“ 本当に参考になりました。

“ とても刺激になりました。ありがとうございました。

感謝のことば

“ ありがとうございました。

回答数は多くないものの、ゲストのお話が参考・刺激になったという声や、感謝のことばが寄せられた。実践者の等身大のお話が、参加者の学びや意欲につながったことがうかがえる。

Q16. その他、ご意見・ご感想がありましたら自由にご記入ください

運営への感謝

“ 主催者、運営の皆さん、楽しい時間をありがとうございました。

自由記述の回答は1件にとどまったが、運営への感謝のことばが寄せられた。他の設問では、時間配分や当日のオペレーションに関する具体的な提案も見られており、次回開催に向けた検討材料になると考えられる。

- 四万十町役場

- にぎわい創出課

- 担当：友永

- 〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

- E-mail：syoko-koyo-40010@town.shimanto.lg.jp

- TEL：0880-22-3281 FAX：0880-22-5040

- 高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

- 担当：教授 須藤順

- 〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

- Web：https://www.communitydesign-kochi.jp/

- E-mail：j.suto@kochi-u.ac.jp

- TEL：088-888-8077 FAX：088-888-8043

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料に掲載されている写真・文章・図表等の無断転載・二次利用を禁じます。

イベントに関する記事や
情報を発信しております。

Instagram



Facebook



X



note



こちらもぜひ、ご覧ください。